

野菜花き 9月上旬巡回調査結果の概要

【東北信】 巡回日 9月4日、5日、6日

1 トマト

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）では収穫期であった。ハモグリバエ類の寄生葉が多くみられ、寄生株率が高かった。病害の発生はみられなかった。

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は生育期（第4花開花期）であった。葉かび病の発生がみられたが、少発生であった。ハモグリバエ類の寄生がみられ、寄生株率は平年と比べ高かった。オンシツコナジラミの寄生もみられたが、少発生であった。

2 きゅうり

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は収穫期であった。うどんこ病の発生が多かった。褐斑病、べと病の発生もみられ、発病葉率は低かったが、平年と比べるとやや多かった。害虫ではオンシツコナジラミ、ハモグリバエ類の寄生がみられ、平年と比べやや多かった。

中野市の巡回ほ場（露地栽培）は収穫期終盤であった。褐斑病、炭疽病、べと病の発生が多かった。害虫ではハモグリバエ類の寄生がみられ、平年と比べやや多かった。

3 いちご

南牧村の巡回ほ場は、前回同様にアザミウマ類の発生が多かった。また、一部の株に、頭数は少ないものの、ハダニ類、アブラムシ類の寄生がみられた（図1）。病害の発生はみられなかった。

4 キャベツ

小諸市の巡回ほ場は結球期であった。チョウ目害虫の被害株率が高く、結球葉への食害も多くみられた。病害の発生はみられなかった。

南牧村の巡回ほ場は結球期であった。ウワバ類の寄生がみられ、チョウ目害虫の被害株率がやや高かったが、結球葉の被害はみられなかった。病害の発生はみられなかった。

軽井沢町の巡回ほ場は結球期であった。株腐病の発生がみられたが、発生量は少なかった。害虫ではウワバ類の寄生株が多かった。オオタバコガの寄生もみられ、チョウ目害虫の被害株率が高く、結球葉への食害も数株で見られた。

御代田町の巡回ほ場は結球期であった。株腐病の発生がみられたが、発生量は少なかった。虫害ではコナガの寄生が多く（図2）、チョウ目害虫の被害は全株にみられた。結球葉への食害も多くみられた。

長野市の巡回ほ場は収穫期であった。株腐病、黒腐病の発生がやや多かった。虫害ではウワバ類の寄生が多く、チョウ目害虫の被害株率も高かった。結球葉への食害はみられなかった。

5 ブロッコリー

南牧村の巡回ほ場は収穫期であった。黒斑細菌病の発病株率が高く、黒腐病の発生もやや多かった。虫害ではチョウ目害虫の被害がわずかにみられた。

御代田町の巡回ほ場は収穫期であった。チョウ目害虫の被害株が多かった。病害の発生はみられなかった。

6 はくさい

上田市の巡回ほ場は結球期であった。ピシウム腐敗病が少発生、チョウ目害虫の被害株率が高かった。

小諸市の巡回ほ場は結球始期であった。ピシウム腐敗病が少発生、害虫の発生はみられなかった。

小海町の巡回ほ場では結球期であった。ピシウム腐敗病が少発生、チョウ目害虫の被害株がみられたが、わずかであった。

南牧村の巡回ほ場は、結球始期であった。病虫害の発生はみられなかった。

7 レタス

上田市の巡回ほ場は収穫期であった。すそ枯病、斑点細菌病の発生がみられたが少発生であった。

小諸市の巡回ほ場は結球始期であった。すそ枯病の発生は少発生であったが、斑点細菌病は発病株率が高かった。



図1 いちごのアブラムシ類（南牧村）



図2 キャベツのコナガ成虫（御代田町）

南牧村の巡回ほ場は結球期であった。すそ枯病の発生が多く、斑点細菌病の発生は少発生であった。御代田町の巡回ほ場は結球期であった。すそ枯病の発生は少発生、斑点細菌病は発病株率が高かった。飯綱町の調査ほ場は生育期（5葉期）であった。すそ枯病の発生がわずかにみられた。いずれの巡回ほ場でも、虫害の発生はみられなかった。

8 アスパラガス

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）は立茎繁茂期であった。茎枯病は前回調査時よりも発生が多かった。また、全株にアザミウマ類の寄生がみられた。

小布施町の巡回ほ場（雨よけ施設栽培）は立茎繁茂期であった。茎枯病、立枯病、斑点病の発生はみられなかったが、褐斑病の発生が多かった（発病株率70%、図3）。また、20株中1株にチョウ目害虫（オオタバコガ）の寄生がみられた。



図3 アスパラガス褐斑病(小布施町)

中野市の巡回ほ場（雨よけ施設栽培→被覆資材除去）は立茎繁茂期であった。斑点病の発生がみられたが、わずかであった。虫害ではアザミウマ類、ハダニ類の寄生がみられ、寄生株率がやや高かった。また、20株中1株にチョウ目害虫（オオタバコガ）の寄生がみられた。

飯山市の巡回ほ場（露地栽培）は立茎繁茂期であった。茎枯病の発病株率が高く、斑点病が少発生であった。虫害では、アザミウマ類の寄生株率がやや高かった。

9 ながいも

長野市の巡回ほ場では生育期であった。アブラムシ類の寄生はみられなかった。

10 きく

佐久穂町の巡回ほ場は破蕾期であった。病虫害の発生はみられなかった。

【中南信】 巡回日 9月5日、6日、9日、10日

1 トマト

南箕輪村の巡回ほ場（施設・抑制栽培）では、着果中であった。葉にコナジラミ類（少発生）の寄生がみられた。

2 きゅうり

高森町の巡回ほ場（施設・半促成栽培）、松本市の巡回ほ場（施設・抑制栽培）ではいずれも収穫中であった。いずれの巡回ほ場でも、葉にワタヘリクロノメイガ（ウリノメイガ）（いずれも少発生）の寄生がみられたほか、高森町では葉にオンシツコナジラミ（少発生）、松本市では花及び葉にアザミウマ類（少発生）の寄生もみられた。

3 キャベツ

茅野市及び塩尻市の巡回ほ場では結球期、朝日村の巡回ほ場では生育期（9～10葉期）であった。茅野市では、外葉にコナガ及びウワバ類（いずれも少発生）の寄生がみられた。塩尻市では、黒斑細菌病（中発生）及び軟腐病（少発生）の発生がみられたほか（図4）、外葉にウワバ類（少発生）の寄生がみられた。朝日村では、病虫害の発生はみられなかった。



図4 キャベツ軟腐病(塩尻市)

4 ブロッコリー

伊那市の巡回ほ場では、出蕾期であった。外葉にコナガ及びウワバ類（いずれも少発生）の寄生がみられた。

5 はくさい

木祖村の巡回ほ場では生育期（3～4葉期、収穫終了のため調査ほ場変更）、朝日村の巡回ほ場では結球期であった。朝日村では、軟腐病（少発生）による株の腐敗がみられた。木祖村では、病虫害の発生はみられなかった。

6 レタス

塩尻市片丘の巡回ほ場では、収穫期であった。軟腐病（少発生）による株の腐敗がみられた。塩尻市洗馬の巡回ほ場では、結球開始前であった。外葉に斑点細菌病（多発生）の発生がみられた。朝日村の巡回ほ場では、生育期（8～9葉期）であった。病虫害の発生はみられなかった。

7 セルリー

原村の巡回ほ場では、生育中であった。葉にハモグリバエ類（少発生）の寄生がみられた。
松本市の巡回ほ場では、生育中（トンネル下）であった。病害虫の発生はみられなかった。

8 アスパラガス

豊丘村、飯島町、池田町のいずれの巡回ほ場でも、茎葉繁茂期であった。いずれのほ場でも茎枯病（少発生・中発生・中発生）の発生及びアザミウマ類（少発生・中発生・多発生）の寄生がみられた。また、豊丘村では前回同様にハダニ類（甚発生）が高密度となっていた。

9 ねぎ

豊丘村では8.0葉、南箕輪村では収穫中、山形村の巡回ほ場では8.5葉であった。いずれの巡回ほ場においても、黒斑病（いずれも多発生）の発生がみられ、依然高い発病株率であった。虫害では、いずれのほ場においても、アザミウマ類（甚発生・多発生・多発生）、ネギハモグリバエ（いずれも多発生）、ネギコガ（いずれも少発生）の寄生がみられた。

10 ながいも

山形村の巡回ほ場では、生育中であった。アブラムシ類の寄生はみられなかった。